



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部
ホームページから登録された方にお送りしています

第 121 号 (2016 年 3 月 31 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

春は別れの季節でもあります。小山法学部長よりみなさまへのご挨拶です。

○ 法学部長を終えるにあたって

「法学部だより」の読者の皆さま、なかでも法文学部法学科および法学部の OG・OB の皆さま、2 期 4 年に亘る法学部長在職中に皆さまからいただきましたご芳情に、こころより感謝申し上げます。

思い起こしますと、4 年前、非才なわたくしに学部長の大任が委ねられたとき、光栄の念とともに、一抹の不安を抱きながらも、学部の先生方の期待を裏切らないように励みたいとの思いで、今日まで努めてきました。しかしながら、果たしてそのようであったのかにつきましては、少しの確信も持てないでいますが、吉岡・波多野両副学部長の先生を始め、学部の教職員の皆さまに支えられて、大きな迷惑をおかけすることなく、何とか学部長の任を終えることができました。いささか内輪話のようではありますが、この場を借りまして、改めて感謝申し上げたいと思います。

同時に、この間、OG・OB の皆さまからもこころ温まるご支援をいただきました。陶浪・法文経同窓会会長には、再三に亘り有形・無形のご指導とご助言をいただき、感謝申し上げます。また、小長・全学同窓会会長にも、こころよりお礼申し上げます。小長会長からは一学部長に対するものを遙かに超えるお心遣いをいただきました。更に、中門・法文経同窓会東京支部長、吉岡桂子様、多田千香子様には、ご多忙の中無理を申し上げて、ホームカミングデイの際のご講演をお引き受けいただきました。神野・法文経同窓会広島支部長、西本・法文経同窓会副会長、秋山義信弁護士からは、大きなお力添えをいただき、同期生と致しましてたいへん頼もしい思いをさせていただきました。ほかにも、各地の法文経同窓会支部総会にお招きいただき、楽しいひとときを共に過ごさせていただいた OG・OB の皆さまのことも、忘れることができません。

総じて、この 4 年間ほど、学部にとって同窓会の存在がいかに大きなものであり、いかに頼もしい存在であるのかということ、身を以て痛感したことはありませんでした。初めてお会いし、会話を交わすことがありましても、OG・OG の方であれば、旧知の仲と思い違いすることが度々でした。これほどありがたいと感じたことも、それほどありません。お会いできなかった方々、読者の方々を含めまして、皆さまにこころより感謝申し上げます。

4 月より、学部執行部は一新します。これまでいただいたご支援に増して、一層のご支援を新執行部および法学部に賜りますようお願い申し上げます。

最後に、わたくしの好きな尾形乾山の句を挙げさせていただきます。

「憂きこともうれしき折も過ぎぬればただあけくれの夢ばかりなる」

皆さま、ありがとうございました。

法学部長 小山正善